



社会貢献

社会の持続的な発展への貢献

「安全な暮らし」「豊かな地球環境」「安心と活力ある地域社会」の3つを重点分野として、地域社会との対話と交流に努め、グループ丸となった活動に取り組んでいます。

社会貢献活動の方針

NEXCO西日本グループでは、高速道路の重要な社会インフラとしての役割を果たすとともに、以下の方針のもとで、会社と社員が協力して積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。

1. 社会貢献の目的

NEXCO西日本グループは、安全な暮らし、豊かな地球環境、安心と活力ある地域社会の実現に向けた取り組みを通じて、社会の持続的な発展に貢献します。

2. 活動方針

活動にあたっては、地域社会との対話と交流に努め、これまで培ったノウハウや資源を活かしてグループ丸となった社会貢献活動に取り組めます。

3. 重点分野

以下の3つの分野の活動に重点的に取り組みます。

③ 地域の元気

【安心】私たちは、高齢者、児童、障がい者などの方が地域で安心して暮らしていけるよう、医療・福祉など生活環境の均衡に資する活動に貢献します。

【活力】私たちは、活力ある地域社会の自立的な発展のため、地域産業活性化や観光振興に貢献します。



① 安全

私たちは、地域の安全な暮らしを実現するため、交通安全活動、災害救援活動に貢献します。

② 環境

私たちは、豊かな地球環境づくりのため、地域の環境保全活動や道路事業に関連した環境技術の開発に貢献します。

① 安全への取り組み

交通安全啓発のイベント・講習会を開催しています

高速道路での事故原因や安全走行に関する知識・ノウハウを活かし、高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、管理事務所や高速道路事務所では、地域の警察や交通安全協議会、市町村やJAFと連携し、SA・PAはもとより高速道路外の地域施設にも、その活

動の場を広げながら交通安全教室や講習会、キャンペーンを行っています。これらの活動では、紙芝居を使うなどわかりやすさを心がけながら、シートベルト着用の重要性や横断歩道での安全確認の仕方、飛び出し事故の怖さなどについてお伝えしています。

2012年度は、幼児やその保護者、高齢者を対象とした交通安全教室を西日本各地で実施しました。また、パトカーや作業用車両などの記念撮影も、子どもたちにたいへん喜ばれました。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう、安全への取り組みを各地域で開催していきます。



紙芝居を使った交通安全教室

ステークホルダーコメント

紙芝居や寸劇で、交通マナーをわかりやすく伝えていただいています



板野地区交通安全教育推進協議会 教育指導員 石井 清子 様

徳島県警・板野警察署管内には上板SAがあり、地域の社会福祉協議会が実施している高齢者向け交通安全教室をきっかけに、NEXCO西日本さまと園児向けの教室を共同実施しています。

教室では教育指導員が、園児たちと対話しながら交通のルール・マナーを教えており、NEXCO西日本さまからは、高速道路における交通マナーを紙芝居や寸劇で園児の父兄にもお伝えいただいています。交通管理隊員の制服や巡回車などが見られ、発煙筒や非常電話の使い方など貴重な体験ができるのは、高速道路会社と実施する交通安全教室ならではのと思っています。

みんなでいっしょに交通事故ゼロを目指すプロジェクト“DRIVE&LOVE”を推進しています

「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」を原動力に、想いやりの心の



輪を広げることで、みんなでいっしょに交通事故ゼロを目指すプロジェクト“DRIVE&LOVE”を推進しています。“DRIVE&LOVE”では、各地でのイベントやウェブサイトなどを通じて、「愛する人、思い出してから運転」を合言葉に安全運転を呼びかけています。大切な人のことを思い

出してからハンドルを握るよう呼びかけることで、交通事故を他人事のように思いがちな人々にも、自分のこととして安全運転を考えていただく気付きの機会を提供しています。

プロジェクトには、企業や団体の皆さまに加え、一般ドライバーを中心とした「個人サポーター」の皆さまにもご参加いただき、高速道路のみではなく、一般道路も含め、社会全体で運転への意識を変えていくことを目指しています。2013年3月末現在、150を超える企業・団体、約16,400人の個人サポーターの皆さまにご参加いただいています。

今後も、1人でも多くの方に共感していただけるよう、そして、「愛する人、思い出してから運転」の実践とともに、その共感を周囲にも広げていただけるよう、“DRIVE&LOVE”のメッセージを発信していきます。



公式ウェブサイト：
<http://drive-love.jp/>



イベント会場にキャンペーンブースを
出展



親子で楽しく交通安全を学んでもらう
ためのイベント

マッチングギフト方式による災害義援金を寄付しました

地震や台風などの大規模災害において、被災者の皆さまの救援や復興に役立てていただくため、グループ社員に募金を呼びかけています。

大規模災害に対し、社員の募金に会社からの寄付を上乗せするマッチングギフト方式を採用することにより、社員の社会貢献意識を会社が後押ししています。こうして集められた義援金を、日本赤十字社や地方自治体を通して寄付しています。

2012年度は、九州北部豪雨災害で被災した日本赤十字社福岡県支部、熊本県、大分県に対し、延べ22,100人

九州北部豪雨災害被災地への義援金

支援先	募金金額(千円)		延べ参加人数(人)
	社員	会社	
日本赤十字社福岡県支部	2,640	2,600	7,300
熊本県	2,760	2,700	7,500
大分県	2,691	2,600	7,300
合計	8,091	7,900	22,100

の社員からの募金額に当社寄付分を加えた計1,599万円を寄付しました。

② 環境への取り組み

「つなぎの森」で森林再生に取り組んでいます

地球温暖化^Rの抑制、土砂災害の防止、動植物の生息環境保全などで重要な役割を果たす森林を再生するために、西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。

2012年度は、自治体や森林組合とともに、6カ所で植林や間伐を行いました。これにより、年間約43トンのCO₂が削減できた見込みです。

今後も西日本各地で地方自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



つなぎの森「南紀龍神」での森林保全活動の様子

各地の森林保全活動

地域	活動場所	自治体	面積(ha)
関西地区	つなぎの森「南紀龍神」	和歌山県	約11
中国地区	つなぎの森「とっとり西伯」	鳥取県	約5
	つなぎの森「ひろしま三原」	広島県	約15
四国地区	つなぎの森「四国いの町」	高知県	約35
九州地区	つなぎの森「湯布院」	大分県	約5
	つなぎの森「えびの」	宮崎県	約8
			合計 約79

社員コメント

「つなぎの森」活動を、社員と地域の皆さまをつなぐ場としても、活用していきたいと考えています



NEXCO西日本 関西支社 総務企画部 企画調整課 安石 さや香

自治体などが推進する森林再生の取り組みを支援する「つなぎの森」活動は、関西地区では2013年で6年目を迎え、これまでに計10回活動してきました。5年間実施してきた植樹は2012年度で終了し、今後は補植や下草刈りなどの維持・管理が活動の中心となってきます。

活動は森林再生という本来の目的のほかに、グループ社員が自然の中で地域の皆さまと交流できる機会にもなっています。今後も興味を持っていただけるような活動・イベントを実施し、「つなぎの森」がグループ社員と地域の皆さまをいっそう深くつなぐ場になればと考えています。

③ 地域の元気への取り組み

職場体験や出張学習会を実施しています

料金所見学や料金収受業務体験、SA・PAでのエリア清掃やテナントでの商品管理など、小・中学生の職場体験を積極的に受け入れています。また、沿線周辺の小学校に対しては、グループ社員が講師となって出張学習会を実施。騒音測定・免震実験などを織り交ぜながら、道路事業をわかりやすく説明しています。

2012年度は、小学生を対象に事務所や建設現場の見学会を実施しました。新名神の建設現場見学会では地元の小学生を招待し、橋脚の工事を見学することで、事業活動へのご理解を深めていただきました。また、コンクリート橋脚に将来の夢やメッセージを描いてもらい思い出づくりをしていただきました。

今後もこうした機会を通じて地域の皆さまと積極的に対話をしていきます。



新名神兵庫事務所武庫川橋の建設現場にて、メッセージを作成

グループ社員の社会貢献活動参加に対する奨励・支援

東日本大震災の復興イベントへの参加など多種多様なボランティア活動に参加しています

毎年2カ月間の「ボランティア月間」を設定し、講演会を開催したりボランティアに関する情報を提供するなど、グループ社員の自主的な社会貢献活動を奨励・支援しています。

2012年度は、9～10月にボランティア月間を設け、期間中、道路・河川などの清掃や、小学校でのスポーツ指導などのボランティア活動に取り組みました。また、期間外にも、例えば関西地区では、11月に開催された「第2回大阪マラソン」の運営に延べ20人のグループ社員が参加しました。このほか2013年3月10日には、関西でできる東日本大震災の被災者支援活動として、

関西企業が協力して開催した「3.11 from KANSAI2013～一歩、また一歩～」の運営に16人のグループ社員が参加するなど、さまざまな場面で活動を行っています。

今後もより多くのグループ社員が社会に貢献できるよう、ボランティア活動を支援していきます。



「大阪マラソン」にてコース整備をするボランティア



「3.11 from KANSAI」にて会場への誘導を行うボランティア

社員コメント

ボランティア活動を通して被災地支援継続の必要性を実感しました



NEXCO西日本 関西支社
阪奈高速道路事務所 保全課

加賀谷 俊介

関西でできる被災地支援として、「3.11 from KANSAI」にボランティアとして参加しました。震災以降、被災地にボランティアや観光で訪れた際、「震災を忘れてほしくない」という現地の方の想いを強く感じました。震災を風化させないためにも、継続して被災地支援イベントに参加したり、被災地に足を運んだりすることが大切だと思っています。

被災地では心のケアなどソフト面での支援がまだ必要とされています。何らかのかたちで支援できればと思いますし、災害時の避難場所として高速道路ののり面整備が進められていることを全国に周知することも重要だと考えています。

西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部による社会貢献活動

SA・PAの売上金の一部を活用し地域社会への貢献に取り組んでいます

西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部は、NEXCO西日本サービス・ホールディングスとSAなどの店舗を運営しているテナント55社(2013年3月末現在)で構成されており、SA・PAの売上金の一部を活用し地域社会への貢献に努めています。

産科医・助産師を目指す学生に奨学金を給付しています

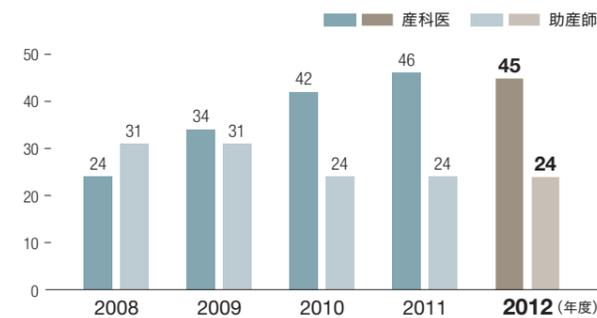
医師不足が深刻化する中、「産科医師」が激減する地域が次々と目立つようになってきています。当倶楽部では、このような現状を踏まえ2007年度から産科医学生支援奨学基金を、2008年度からは助産師育成支援奨学基金を支援しています。

2012年度は、45人の産科医学生、24人の助産師学生に奨学金を給付しました。2013年度も、同様の支援を継続する計画です。



産科医・助産師を目指す学生の研修風景

奨学基金制度の利用者数(単位:人)



基金の概要

名称	支援内容
産科医学生支援奨学基金	医学部を有する西日本の大学から推薦を受けた医学部5～6年生を対象に年間100万円を2年間学資支援
助産師育成支援奨学基金	西日本の助産師学校に通う学生を対象に年間50万円を1年間学資支援

22カ所の認可外保育施設を支援しています

すべての人が働きやすい環境づくりは、安心して子どもを産み育てられる社会の実現に不可欠です。当倶楽部は、2009年度から西日本にある認可外保育施設

への支援を実施しています。

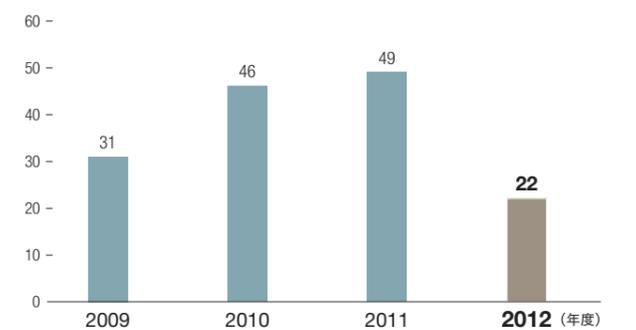
1年目は「施設の改修・改良や備品の購入費」として100万円を上限とし、2年目は「職員や幼児の健康診断費用等の運営費補助」として25万円を上限として支援しています。一定の条件を満たす認可外保育施設に支援の内容・条件を説明し、支援を希望された施設すべてに支援金を給付しています。

2012年度は22施設(昨年度以前からの継続を含む)への支援を実施しました。2013年度も、同様の支援を継続する計画です。



認可外保育施設

認可外保育施設の支援数(単位:施設)



ステークホルダーコメント

地域との共生を通じ、社会と国土の発展に役立てる活動を継続していきます



西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部
中四国地域会 会長
株式会社トモテツセブン 代表取締役会長

林 克士 様

エリア・パートナーズ倶楽部・中四国地域会の一員として活動するにあたり、高速道路という交通インフラの整備を通じ、お客さま満足の追求と地域社会への貢献を目指しています。現在まで実施してきた子育て支援や障がい者支援などの各種支援については、政府の成長戦略にも盛り込まれており、その先見性が評価されるとともに、国内外から大きな反響を呼んでいます。

今後は、震災など地域の災害に対応できる高速道路の整備支援や、地域の魅力を全国に発信する機会を増やしていくことに重点的に取り組んでいきたいと思っております。地域との共生を通じ、社会と国土の発展のお役に立てれば、倶楽部会員としてこれ以上の幸せはありません。今後も倶楽部会員の皆さまとともに、社会貢献活動を継続していきます。